

研究課題名	COVID-19 ARDS における人工呼吸器関連下気道感染症が転帰に与える影響の検討
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学 教授 志馬 伸朗
研究期間	許可日 ~ 2025年 3月31日
対象者	2019年11月1日 ~ 2023年3月31日の間に、広島大学病院高度救命センター・集中治療部に入室し、侵襲的人工呼吸を要した新型コロナウイルス感染症（Coronavirus Disease 2019: COVID-19）による急性呼吸窮迫症候群（Acute Respiratory Distress Syndrome: ARDS）の患者さん。
意義・目的	COVID-19 は依然感染拡大が続き、その一部は重症化し人工呼吸を始めとする集学的治療を必要とします。COVID-19 による呼吸不全や ARDS で人工呼吸を要する症例は、他の要因で人工呼吸を要する症例と比較して人工呼吸器関連肺炎（Ventilator-associated pneumonia: VAP）や人工呼吸器関連下気道感染症（Ventilator-associated lower respiratory tract infection: VA-LRTI）の頻度が多いことが示されています。海外の報告では COVID-19 による呼吸不全で人工呼吸を要する症例は VAP による死亡が多いことや、人工呼吸期間の延長の報告があります。一方で日本における VA-LRTI の転帰に及ぼす影響は明らかではありません。本研究は COVID-19 による ARDS の症例において、VA-LRTI が転帰に及ぼす影響を検討することを目的とします。
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は</p> <p><患者情報></p> <p>性別、年齢、身長、体重、COVID-19発症日、抗原/PCR検査結果と検査日、入院日、退院日、ICU入退日、ICU退院日</p> <p>既往歴、内服薬、飲酒歴、喫煙歴、Charlson Comorbidity Index、免疫抑制状態、入院前の医療曝露、先行抗菌薬曝露</p> <p>体温、脈拍数、呼吸数、血圧、意識レベルなどのバイタル情報</p> <p><検査情報></p> <p>血液検査データ（血液ガス PaO₂, FiO₂, PaCO₂, Hb）</p> <p>微生物培養検査（多剤耐性菌の定着、血液培養、痰培養）</p> <p><治療内容></p> <p>腹臥位換気の有無や期間</p> <p>HFNCやNIV使用の有無・期間・設定</p> <p>人工呼吸管理の有無・設定・期間</p> <p>ECMOの有無・設定・期間</p> <p>使用薬剤の量や投与時期（ステロイド、ファビピラビル、レムデシビル、トリシズマブ、バリシチニブ、モルヌピラビル、カシリビマブ/イムデビマブ、抗生物質、カテコラミン、</p>

抗凝固薬、抗真菌薬、抗潰瘍薬)

気管切開の有無と日程

栄養内容とカロリー・タンパク投与量

<入院中合併症>

人工呼吸管理関連肺炎、菌血症、肺膿瘍や膿胸、真菌症など感染性合併症

深部静脈血栓症、肺塞栓症、消化管出血、脳出血、気胸等の合併症の有無

<転帰>

ICU退室時の転帰（死亡、呼吸器装着や気管切開の有無）

病院退室時の転帰（死亡、呼吸器装着や気管切開の有無）

死亡率（ICU死亡，病院死亡，14、28、30、90日など）

人工呼吸期間，人工呼吸離脱率，Ventilator-Free Days です。

（個人を特定可能な情報は解析に用いません）

共同研究機関

ありません。

試料・情報の管理責任者

広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学 教授 志馬 伸朗

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5456

広島大学大学院医系科学研究科 救急集中治療医学 大学院生 石井 潤貴，教授 志馬 伸朗

研究機関：広島大学